

「大丈夫だよ。」

その一言で、私は救われました。そして、目指すべき夢も決まったのです。

私の将来の夢は看護師です。病気や入院と聞くと不安になる方がたくさんいらっしゃるかと思います。私はそういった人たちの心身を救える看護師になりたいと思っています。私の母といとこが看護師で、姉は現在管理栄養士を目指して頑張っています。だから、私にとっては、医療という職業はとても身近に感じられます。このことが、私が看護師を目指したきっかけの一つなのかもしれません。そしてもう一つ、看護師を目指すきっかけになった出来事がありました。

私が看護師さんに救われたのは、祖母が入院した時のことです。当時私は、小学校六年生でした。もうおばあちゃんに会えないのだろうか、私はとても不安でした。当時は新型コロナウイルスが流行っていて面会が制限されていました。しかも、私の家から病院までは遠く、何回も病院に行くことが困難でした。「会えない間に、祖母の状況が悪化したらどうしよう」と、私は不安でなりませんでした。そのとき、不安そうな私を見て、そばにいた看護師さんが

「大丈夫だよ。私たちが見てるから。」

と声をかけてくれたのです。不思議とその一言で、私の不安が少しなくなったように感じられました。そしてその時、「大丈夫」という言葉が魔法のように感じられたのです。だから、私の不安が和らいだのだと思います。人を救うとはどういうことなのかを、その頃から考えるようになりました。看護師とは、医師の補助をし、人の命を救う手伝いをするものだと思っていました。しかし、私は違うと思うようになったのです。看護師の使命とは、単なる医療の手伝いをする人ではなく、患者さん、そのご家族の不安を少しでも減らせるように親身になって話を聞いたり寄り添ったりすることだだと思います。だから、手伝いなんかではなく、人の心を救える人だと思うのです。

そして、その経験を通して私は看護師になりたいと強く思うようになりました。人に寄り添い、人の心を少しでも救える看護師になりたいと思います。そうは言っても、思い描いている看護師にはそう簡単になれるようなものではないと思います。夢を語るのは簡単だけれど、夢を叶えるのはとても難しいことだと思うからです。でも、私は人に寄り添える看護師を夢見て毎日一日一日を大切にし、頑張っています。

さらに、私は手話ができる看護師も目指しています。耳が聞こえたり、目が見えたりすることは当たり前ではありません。毎日を当たり前だと思って生きてはいけないと思います。突然、目が見えなくなることだってあるし、耳が聞こえなくなることだってあると思います。自分の当たり前を相手の当たり前だと思ってはいけないのです。私たちはいつも「死」と向き合って生きています。いつ死ぬかはわからないし、誰も教えてくれません。だから、障がいを持っている人も関係なく救える看護師になりたいと思います。でも、この先、将来の夢は変わってもよいとも思っています。自分が考えて決めたことだし、その人生を歩むのは私自身なので。そして人生は一度きりだからしっかりと自分と向き合って考えていきたいと思っています。

私たちは今、高校入試も控えており、人生初の岐路に立たされています。きっと大変なことに向かわなければならぬ時だってあるでしょう。乗り越えられない壁にぶつかってしまう時があるかもしれません。けれども、私には夢があります。夢があるということは日々の行動に決断や目的を与えてくれ、その壁を乗り越えることができます。時には本当に乗り越えられない壁が出てくるかもしれません。その時は一度立ち止まることも大切だと思います。なぜなら、私は人の命を救うという責任を持ち、人に寄り添い、不安を少しでも減らせるような看護師になりたいと思っているのだから。